

○2月モニターレポート

2013年2月のレポートです。よろしくお願ひします。

今回は、矢作川についてもっと知りたいと思い、普段レポートしている矢作川の中流域を越えてみることにしました。

川には、始まりがあって終わりがあります。

つまり地から湧き出る源流と、海へと注ぐ河口です。

私がよく目にしている矢作川は、長い河(117km)の中ほどのほんの一部といえます。

矢作川の源流について

源流は「長野県下伊那郡の平谷峠と愛知県北設楽郡の茶臼山に発する」とされています。

と？っていうことは2つあるということなのでしょうか。

長野県下伊那郡の浪合村と平谷村との境の高峰・大川入山の西に発する柳川が矢作川の源流という説。

もうひとつは、長野県下伊那郡根羽村と同郡売木村の境、売木峠の西にあり、源流名は小戸名川で、川沿いに茶臼山の登山道があり、その標高1,250 m 地点に豊富な湧き水がある。

他にも、私が以前に参加した企画で訪れたのですが、豊田市と設楽町の境にある面の木峠にも矢作川の源流のひとつとされる沢があり、当時大きな感動を憶えたことは記憶に新しいです。

まだ他にも源流については諸説あり……。

しかし、よくよく調べてみると、流路長を特定するための「源流」とは別に、実際に流水を生み出すところという意味で源流は無数にあるということらしい。

よって、有名無名を問うことなく支流の数だけあり、源流を特定することはできません。

それでは腑に落ちないというならば、上流部で網の目のようになっている支脈の端全てをまとめて「源流部」とする他ないのかもしれない。

矢作川の河口について

こちらは、まだ一度も行ったことがないのでぜひ行きたいと思っています。

碧南市と西尾市の市境にあり、三河湾へと達する矢作川河口部。

かつては、広い干潟が存在していたが、火力発電所建設のために埋め立てられ、護岸工事や浚渫工事も進んで、現在の矢作川河口において、前浜干潟は完全に消滅したが(環境庁, 1995)かなり小規模ではあるものの河口干潟は健在しているとのこと。

まだ干潟の全貌は明らかにされてませんが、大切な役割を果たしていることは確かです。

国は、少しずつではあるが干潟造成により干潟を増加させ、豊かな自然環境の創出に向け試験施工を行っているということなので、この事業に大いに期待したいと思います。



源流のひとつ: 茶臼山登山道付近の湧き水(根羽村)



矢作川の河口部

以上、報告申し上げます。